

## Part2104 ◆ I S バランス式 (貯蓄・投資バランス式)

この Part は、本線 (45 度線分析 → I S - L M 分析 → A D - A S 分析) からは少しはみ出るのですが、公務員試験では一定の頻度で出題されているジャンルですが、それほど難しくはないと思います。

「I S バランス」の I は投資 (investment) を、S は貯蓄 (save) を意味します。また、新たに租税 T (tax) が登場します。

下記の式のうち、「総供給 (総生産) = 総需要 (総支出)」の部分は、Part2102 で学んでいただきましたが、これらは「総所得」と等しくなることを示しています。そして、その「総所得」ですが、家計を例にして考えるとわかりやすいと思いますが、一部は消費し、一部は貯蓄し、一部は納税することになります。

$$\begin{aligned} \text{総供給} &= \text{総需要 (総支出)} &= \text{総所得} \\ \text{総生産} &= \text{消費} + \text{投資} + \text{政府支出} + \text{輸出} - \text{輸入} &= \text{消費} + \text{貯蓄} + \text{租税} \\ Y_s &= C + I + G + X - M &= C + S + T \\ &I + G + X - M &= S + T \end{aligned}$$

そして、これを変形した次の式を「I S バランス式」といいます。

$$\begin{aligned} S - I &= G - T + X - M && \text{となります。} \\ \text{国内貯蓄超過} &= \text{公債} + \text{輸出超過} \end{aligned}$$

「だから何なの？」という感じかもしれませんが、要は、日本のように国民の貯蓄が投資を大幅に上回るような国では、「公債 (国債)」をたくさん発行しているか、それとも経常収支が黒字になっているか、あるいはその両方に該当するということです。

### 例題 4-1

$$\begin{aligned} \text{国民所得 } Y &= \text{消費 } C + \text{民間投資 } I + \text{政府支出 } G + \text{経常収支 } (X - M) \\ \text{国民所得 } Y &= \text{消費 } C + \text{民間貯蓄 } S + \text{租税 } T \end{aligned}$$

と表すことができる。

民間投資 I が 108, 民間貯蓄 S が 147, 政府支出 G が 93, および租税 T が 58 であるとき、貯蓄・投資バランス論 (I S バランス論) に従えば、経常収支 (X - M) はいくらか。

1. 経常収支は 4 の黒字
2. 経常収支は 2 の黒字
3. 経常収支は 2 の赤字
4. 経常収支は 4 の赤字
5. 経常収支は 6 の赤字

例題 4-1

この問題では、経常収支（ $X - M$ ）と記されていますが、本来の $X - M$ は貿易収支であり、経常収支の一部です。

経常収支というのは、貿易収支にサービス収支（観光・運輸・金融・通信）や所得収支（利子・配当）を加えたものなのですが、試験問題では、 $X - M =$ 経常収支となっていることもたびたびあります。

なお、この問題では、数式と数字が示されていますから、意味が不明だとしても、解くことは容易です。

$$\begin{aligned} C + I + G + X - M &= C + S + T \\ I + G + X - M &= S + T \\ 108 + 93 + X - M &= 147 + 58 \\ X - M &= 147 + 58 - (108 + 93) \\ &= 205 - 201 \\ &= +4 \end{aligned}$$

「正解 1」となります。

公務員試験においては、このように絶対に正解すべき基礎レベルの問題が出題されることもあります。

この問題の場合、「ISバランス論」の知識がなくても、示されている数式をもとに解くことが可能です。それはすなわち、問題文中に自分が知らない用語が登場しても、すぐに放棄することなく、最後まで問題文を読んでから判断すべきということの意味しています。

問題 4-1

国民経済計算について、次の関係が成立するとする。

- ①  $Y = C + I + G + X - M$        $Y$  : 国民所得,  $C$  : 消費,  $I$  : 投資,  
 ②  $Y_d = Y - T$                        $G$  : 政府支出,  $X$  : 輸出,  $M$  : 輸入,  
 ③  $Y_d = C + S$                        $Y_d$  : 可処分所得,  $T$  : 租税,  $S$  : 貯蓄

このとき、財政収支、貿易収支、および IS バランスに関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

1. 財政収支が均衡し、貿易収支が黒字ならば、投資は貯蓄を上回る。
2. 財政収支が赤字で、貿易収支が黒字ならば、貯蓄と投資は等しい。
3. 貿易収支が均衡し、財政収支が赤字ならば、貯蓄は投資を上回る。
4. 貿易収支が赤字で、財政収支が黒字ならば、貯蓄と投資は等しい。
5. 貯蓄と投資が等しく、財政収支が赤字ならば、貿易収支は黒字である。

②と③については、下記を導き出すために示されています。

$$\begin{aligned} Y - T &= C + S \\ Y &= C + S + T \end{aligned}$$

ですから、可処分所得  $Y_d$  の意味を知らなくても、問題を解くことは可能です。ちなみに、 $Y_d$  は、自分の意志で処分できる所得で、所得から税金や社会保障費を差し引いた額となります。

なお、2 ページでは、IS バランス式を下記 i の形で示しましたが、この問題を解くにあたっては、ii のように変形しましょう。なぜって、この問題では、「財政収支」という言葉が使われているからです。

公債（国債）=  $G - T$ （政府支出 - 租税）が + というのと、  
 財政収支 =  $T - G$ （租税 - 政府支出）が - というのは、  
 同じ意味になります。

$$\begin{aligned} S - I &= G - T + X - M \quad \dots (i) \\ \text{国内貯蓄超過} &= \text{公債} + \text{輸出超過} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} X - M &= T - G + S - I \quad \dots (ii) \\ \text{貿易収支} &= \text{財政収支} + \text{国内貯蓄超過} \end{aligned}$$

問題 4-1

1. 財政収支が均衡し、貿易収支が黒字ならば、投資が貯蓄を上回る。

$$\begin{array}{rclcl} X - M & = & T - G & + & S - I \\ + & = & 0 & + & ? \end{array}$$

?は+であり、  
貯蓄が投資を上回るので、誤りです。

2. 財政収支が赤字で、貿易収支が黒字ならば、貯蓄と投資は等しい。

$$\begin{array}{rclcl} X - M & = & T - G & + & S - I \\ + & = & - & + & ? \end{array}$$

?は+であり、  
貯蓄が投資を上回るので、誤りです。

3. 貿易収支が均衡し、財政収支が赤字ならば、貯蓄は投資を上回る。

$$\begin{array}{rclcl} X - M & = & T - G & + & S - I \\ 0 & = & - & + & ? \end{array}$$

?は+であり、  
貯蓄が投資を上回るので、正しいです。

「正解 3」となります。

4. 貿易収支が赤字で、財政収支が黒字ならば、貯蓄と投資は等しい。

$$\begin{array}{rclcl} X - M & = & T - G & + & S - I \\ - & = & + & + & ? \end{array}$$

?は-であり、  
投資が貯蓄を上回るので、誤りです。

5. 貯蓄と投資が等しく、財政収支が赤字ならば、貿易収支は黒字である。

$$\begin{array}{rclcl} X - M & = & T - G & + & S - I \\ ? & = & - & + & 0 \end{array}$$

?は-であり、貿易収支は赤字なので、誤りです。

※本質的には、問題 3-1 とまったく同じ問題です。

問題 4-2 (2013 年東京特別区 I 類 30)

ある国の経済が、

$$\begin{array}{llll} Y = C + I + G + X - M & Y : \text{国内総生産} & C : \text{消費} & \\ Y_d = Y - T & G : \text{政府支出} & X : \text{輸出} & M : \text{輸入} \\ Y_d = C + S & Y_d : \text{可処分所得} & T : \text{租税} & \\ & & & S : \text{民間貯蓄} \end{array}$$

で示されるとき、この国の民間部門の貯蓄・投資バランス、財政収支 ( $T - G$ ) 及び経常収支 ( $X - M$ ) に関する記述として、妥当なのはどれか。

1. 財政収支が黒字で、民間部門において貯蓄が投資を上回っているならば、経常収支は赤字である。
2. 民間部門において貯蓄と投資が等しく、財政収支が赤字であるならば、経常収支は黒字である。
3. 財政収支が均衡し、民間部門において投資が貯蓄を上回っているならば、経常収支は黒字である。
4. 経常収支が均衡し、民間部門において貯蓄が投資を上回っているならば、財政収支は赤字である。
5. 経常収支が黒字で、民間部門において投資が貯蓄を上回っているならば、財政収支は赤字である。

問題 4-2

1. 財政収支が黒字で、民間部門において貯蓄が投資を上回っているならば、経常収支は赤字である。

$$\begin{array}{rccccccc} X - M & = & T - G & + & S - I \\ ? & = & + & + & + \end{array}$$

?は+となります。つまり、経常収支は黒字なので、誤りです。

2. 民間部門において貯蓄と投資が等しく、財政収支が赤字であるならば、経常収支は黒字である。

$$\begin{array}{rccccccc} X - M & = & T - G & + & S - I \\ ? & = & - & + & 0 \end{array}$$

?は-となります。つまり、経常収支は赤字なので、誤りです。

3. 財政収支が均衡し、民間部門において投資が貯蓄を上回っているならば、経常収支は黒字である。

$$\begin{array}{rccccccc} X - M & = & T - G & + & S - I \\ ? & = & 0 & + & - \end{array}$$

?は-となります。つまり、経常収支は赤字なので、誤りです。

4. 経常収支が均衡し、民間部門において貯蓄が投資を上回っているならば、財政収支は赤字である。

$$\begin{array}{rccccccc} X - M & = & T - G & + & S - I \\ 0 & = & ? & + & + \end{array}$$

?は-となります。

つまり、財政収支は赤字なので、正しいです。

「正解 4」となります。

5. 経常収支が黒字で、民間部門において投資が貯蓄を上回っているならば、財政収支は赤字である。

$$\begin{array}{rccccccc} X - M & = & T - G & + & S - I \\ + & = & ? & + & - \end{array}$$

?は+となります。

つまり、財政収支は黒字なので、誤りです。